

医学教育分野別評価 秋田大学医学部医学科 年次報告書 2025（令和7）年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2021（令和3）年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022（令和4）年6月1日より7年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 を踏まえ、2025 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024（令和6）年4月1日～2025（令和7）年3月31日を対象としている。また、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 の転記は省略した。

領域 1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・秋田大学の基本理念と基本的目標に基づいて、医学部の理念と医学科の目標が定められ、明示されている。
改善のための助言
・使命の中に生涯学習への継続について、教員や学生など教育の主要な構成者がより理解しやすいように明記すべきである。
改善内容・現在の状況
・これまでも継続的に各種委員会において議論してきたが、令和6年度第2回カリキュラム評価委員会（令和7年3月3日開催）において学外有識者委員より「医学部の理念と目標がしっかりと定められており、大幅に修正する必要はなく、構成者への周知と理解を上げる方策を検討すべきでは」との意見があった。また、別の委員からも「秋田大学全体の理念と目標が別途設定されており、医学部の理念と目標はそれに基づいていなければならないことから大幅に修正することは難しい」との意見もあった。現在の医学部の理念には「学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い」という文言があり、既に生涯教育への継続を意図したものとなっている。以上のことから今後は、文言の大幅な修正は行わず、教員や学生などの主要な構成者への周知と理解度を上げるための方策を検討する予定である。
今後の計画
・上記カリキュラム評価委員会において、「学内の掲示、講義スライドへの挿入や休憩時間にスライドを投影、学内定期試験の統一試験にて出題する」などいくつかの案が提案された。今後、各種委員会で実施について議論し、導入する予定である。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B1.1-01 令和6年度第2回カリキュラム評価委員会 議事要旨

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 1. 使命と学修成果

1.3 学修成果

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・卒業時に備えておくべき能力をコンピテンスおよびコンピテンシーとして定め、6 年間ですべての学生が「卒後臨床研修開始時点に期待されるレベル」に到達できるように、全科目についてコンピテンシーからみた役割を明確化している。
改善のための助言
・使命（理念と目標）と学修成果（ディプロマ・ポリシー／コンピテンス／コンピテンシー）の相互関係と整合性に配慮すべきである。 ・学生および教職員に学修成果を十分に周知し、理解を求めるべきである。
改善内容・現在の状況
・使命（理念と目標）と学修成果（ディプロマ・ポリシー／コンピテンス／コンピテンシー）について、それぞれの用語の説明をシラバスに明記している。また、相互関係や整合性を分かりやすくするため、医学教育モデルコアカリキュラム R4 改訂版に基づいて学修目標（第 1 層から第 4 層まで）の項目ごとに「学生に身につけてもらうよう意識する項目」と「責任講座」を明記している。 ・コンピテンス及びコンピテンシーレベル表を作成し、ディプロマ・ポリシーに到達するための各コンピテンス・コンピテンシーが低学年から高学年に進むにつれて F から A へと段階的にコンピテンシーレベルが上がるよう統合型カリキュラムが策定されていることを教育の主要な構成者が一見してわかるよう、工夫したシラバスを教職員や学生に広く公開している。
今後の計画
・学生および教職員に学修成果を十分に周知し、理解を求めるため、令和 6 年度第 2 回カリキュラム評価委員会（令和 7 年 3 月 3 日開催）において「学内の掲示，講義スライドへの挿入や休憩時間にスライドを投影，学内定期試験の統一試験にて出題する」などいくつかの案が提案された。今後，各種委員会で実施について議論し，導入する予定である。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B1.3-01 秋田大学医学部の理念・目標 ・資料 B1.3-02 卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）〔医学科〕 ・資料 B1.3-03 医学部医学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）／コンピテンスとコンピテンシー ・資料 B1.3-04 医学科のカリキュラムについて ・資料 B1.3-05 資質・能力，学修目標（醸成する項目，責任講座） ・資料 B1.3-06 コンピテンス及びコンピテンシーレベル表 ・【再掲】資料 B1.1-01 令和 6 年度第 2 回カリキュラム評価委員会 議事要旨

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 1. 使命と学修成果

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・使命と学修成果の策定に学生が参加すべきである。
改善内容・現在の状況
・使命と学修成果の策定について、カリキュラム評価委員会・カリキュラム検討委員会に学生が参加している。学生から意見を聴取するだけでなく、学生が積極的に議論に参加している。 ・直近では、令和6年度第2回カリキュラム評価委員会（令和7年3月3日開催）において審議した。
今後の計画
・令和7年度以降も、学生代表を含む委員での検討を継続する予定である。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B1.4-01 カリキュラム評価委員会 名簿 ・資料 B1.4-02 カリキュラム検討委員会 名簿 ・【再掲】資料 B1.1-01 令和6年度第2回カリキュラム評価委員会 議事要旨

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・使命と目標とする学修成果の策定には、患者代表、地域医療機関代表、他医療職種など、より多くの広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。
改善内容・現在の状況
・継続して、カリキュラム評価委員会（医師以外の医療従事者代表、学外医療機関の代表、学外有識者、患者代表等を委員に含む）において、教育について幅広く意見を聴取している。 ・聴取した意見については、カリキュラム検討委員会等に提供し、改善のための参考資料としている。
今後の計画
・令和7年度以降も、幅広い関係者を含む委員での検討を予定している。
改善状況を示す根拠資料
・資料 Q1.4-01 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供 ・【再掲】資料 B1.1-01 令和6年度第2回カリキュラム評価委員会 議事要旨 ・【再掲】資料 B1.4-01 カリキュラム評価委員会 名簿 ・【再掲】資料 B1.4-02 カリキュラム検討委員会 名簿

領域 2. 教育プログラム

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・入学早期から、臨床推論や医療面接の演習を行って学生の学修意欲を刺激していることは高く評価できる。
改善のための助言
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・最新の医学・医療の知見に触れることのできる「基礎医学アドバンストコース」や「臨床医学アドバンストコース」がカリキュラムに組み込まれていることは評価できる。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・研究配属や、臨床研究医養成センターが統括する SA の活動、放課後を利用した自発的な研究活動を通して、低学年から医学や医療に対する学生の学修意欲をさらに刺激している。
今後の計画
・今後も改善を重ねながら継続して実施していく。
改善状況を示す根拠資料
・資料 Q2.1-01 令和 6 年度「研究配属」シラバス（抜粋） ・資料 Q2.1-02 臨床研究医養成センター SA の活動 (参考： https://www.med.akita-u.ac.jp/center/easy/about/education/index.html)

領域 2. 教育プログラム

2.2 科学的方法

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・臨床実習の現場で、EBM による教育が活用されている。
改善のための助言
・「研究配属」で実践的な研究を学生が体験し、発表する機会を増やすべきである。
改善内容・現在の状況
・医学科 3 年次「研究配属」終了時に、研究発表会を実施している。配属ごとに選抜された代表の学生／学生グループが、研究発表を行うもので、学年全員が参加している。研究発表会については、学生同士で質疑応答を行うなど、学生自身が主体的に運営・実施している。 ・終了後、専用フォームを利用し、発表を聴いた学生が評価や感想を述べる機会を設けている。フォームに入力された内容については、集計して各講座へフィードバックし、次年度の研究配属の計画・実施に役立てている ・研究配属終了後に、研究を更に進め、学会発表等を行って受賞する学生もいる。
今後の計画
・今後も「研究配属」を実施し、実施方法や内容について更なる改善を進めていく。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B2.2-01 令和 6 年度 研究配属発表会抄録集 ・資料 B2.2-02 「研究配属」研究発表 学生アンケート（抜粋） ・資料 B2.2-03 「研究配属」後学会発表・受賞学生 資料 ・【再掲】資料 Q2.1-01 令和 6 年度「研究配属」シラバス（抜粋）

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・自殺要因分析など秋田県における重要な課題の研究要素をカリキュラムに含めている。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

領域 2. 教育プログラム

2.3 基礎医学

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・臨床症例を提示した上で基礎医学教育を行っている。
改善のための助言
・なし
改善内容・現在の状況
・多くの基礎講座・社会医学講座において臨床症例を提示した講義を行っている。
今後の計画
・引き続き、臨床症例を提示した上で基礎医学教育を行う。
改善状況を示す根拠資料
・なし

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・「新型コロナウイルス及び新興感染症に対する集中講義」を行っている。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・毎年シラバス作成の際に基礎・社会医学講座に対して臨床症例を提示した講義を意識してシラバスを作成するよう依頼している。また、シラバス作成例を提示し、学内全体の統一を図っている。臨床講座についても基礎医学の内容をカリキュラム内に盛り込むようにしている。科目によっては教員が相互に基礎・臨床の講義に入り、水平-垂直統合を意識した医学教育の実現を目指している。2年生の解剖学実習においては整形外科・脳神経外科・麻酔科医師がそれぞれ参加し、基礎的な事項に加えて臨床的重要事項の学修も盛り込み、解剖学実習を活かした水平-垂直統合型実習の実現に向けて取り組んでいる。 ・感染統括制御・疫学・分子病態研究センター（令和7年度より「感染制御総合センター」に改称）主催の感染症に関するシンポジウムを開催し、学生も参加できる機会を提供した（令和7年2月2日開催『新興・再興感染症に備えよう～コロナ禍の経験と今後の課題～』）。 ・「リサーチドクター養成キャンプ」（令和7年3月1～2日開催／サンルーラル大潟）を秋田大学と弘前大学合同で企画・開催した。両大学の教職員・学生が集まって学生の研究成果発表を行い、大学間で学生を主体とした研究活動を通じた交流の機会を設けた。 ・医療フォーラムや研究プロモートセミナー等、医療や最先端研究に関するイベントを定期的で開催し、学生が参加できる機会を提供している。 ・脳神経外科が毎月開催している脳神経セミナーでは、医師や学生・卒業生のみならず、県内各地の救急隊員等も参加し実際の臨床症例を提示し、対応が適切であったか等の検証や勉強会、脳神

経に関する基礎研究の最先端を紹介する企画等を，多職種連携で行っている。

今後の計画

- ・「リサーチドクター養成キャンプ」を今後も継続して実施する予定である。
- ・その他，最新の知見等に触れられる機会を積極的に設けていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 Q2.3-01 令和 6 年度秋田大学感染統括制御・疫学・分子病態研究センターシンポジウム
- ・資料 Q2.3-02 リサーチドクター養成キャンプ
- ・資料 Q2.3-03 研究プロモートセミナー
- ・資料 Q2.3-04 脳神経セミナー

領域 2. 教育プログラム

2.5 臨床医学と技能

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 2015 年度入学者からのカリキュラムで 74 週の臨床実習を確保している。
改善のための助言
・ 重要な診療科で学修する時間を十分に確保し、診療参加型臨床実習を充実すべきである。 ・ 学生に許容される医行為を明確にし、実践すべきである。 ・ 健康増進と予防医学を確実に経験させるべきである。
改善内容・現在の状況
・ 診療参加型臨床実習をより充実したものとすべく、OSCE/クリニカル・クラークシップ WG を中心に引き続き検討・議論を行っている。 ・ 学生に許容される医行為を明文化し、教員ならびに学生に周知するための方策を検討している。 ・ 健康増進と予防医学を確実に経験させるプログラム内容について検討している。
今後の計画
・ 引き続き検討を行い、実施につなげていく。
改善状況を示す根拠資料
・ 資料 B2.5-01 OSCE/クリニカル・クラークシップ WG 議事要旨

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 1 年次から教育プログラムの進行に合わせ、さまざまなシミュレーション教育が行われていることは評価できる。
改善のための示唆
・ 1 年次だけでなく、すべての学生が早期から段階的に患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めていくことが望まれる。
改善内容・現在の状況
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

領域 2. 教育プログラム

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ なし
改善内容・現在の状況
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・ 秋田県病院協会や秋田大学関連病院協議会等において、卒業生が将来働く環境と教育プログラムについての意見交換を行っている。
改善のための示唆
・ 卒業生が将来働く環境として県内だけでなく、県外の医療機関からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。
改善内容・現在の状況
・ 秋田県臨床研修協議会において、定例会を開催し、卒業生が将来働く環境について情報を共有している。定例会において、県内医療機関から、県外の状況等についても情報提供を受けている。
今後の計画
・ 引き続き意見交換や情報共有を行っていく。
改善状況を示す根拠資料
・ 資料 Q2.8-01 秋田県臨床研修協議会定例会 議事録

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・1年次に外国人SPsを含む医療面接OSCE、動画を活用した聴診OSCEやエコーOSCEを導入していることは高く評価できる。 ・2001年から全国最大規模のステーション数で「PostCC-OSCE」を卒業試験として実施していることは高く評価できる。 ・知識の定着をはかるため、体系的に全学年で統一試験を実施していることは評価できる。
改善のための助言
・低学年から、より体系的な態度評価の仕組みを構築し、実施すべきである。 ・評価結果に対して疑義申し立て制度を明文化すべきである。
改善内容・現在の状況
・1年次からのOSCEや実習評価表等、教員によるパフォーマンス評価を低学年から実施している。 ・態度や評価等、不適切な態度を示す学生がいた場合には、担当教員から注意喚起を行うなど個別指導を行っている。それでも改善されない場合は、学年担任による面談等の実施や、関連する講座教員間、学務委員会、学業生活支援WG、低学年では基礎・社会医学講座懇話会（基礎・社会医学講座のみで開かれる教授会）等、様々なレベルで申し送りや情報交換を行ったりしている（学生に関する個人情報や面談時の資料は学務課が管理している）。 ・学生は担当教員や学年担任との面談時に疑義照会や質問をする機会が与えられており、アンプロ認定されるまでに改善のチャンスも与えられている。
今後の計画
・CC-EPOCの運用開始に伴い、基礎・社会医学講座における態度評価のオンライン化とより効果的な教員間の情報共有（申し送り）システムの構築を検討している。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B3.1-01 1年次OSCE概要

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・「PostCC-OSCE」の評価者に学外臨床実習先の指導医を活用していることは評価できる。
改善のための示唆
・基礎医学・社会医学実習評価表はプロフェッショナリズム評価の観点为主体であり、評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。 ・臨床実習での経験記録、実習中のmini-CEX、360度評価等の普及を図ることが望まれる。
改善内容・現在の状況
・臨床実習において、CC-EPOC、mini-CEX（短縮版臨床評価法）等を運用している。

今後の計画
・ 更に CC-EPOC やmini-CEX（短縮版臨床評価法）等の普及を進めていく予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ 資料 Q3.1-01 C C – E P O C ・ 資料 Q3.1-02 mini-CEX

3. 学生の評価

3.2 評価と学修との関連

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・教育の各段階において、学修成果の到達度を評価する基準を定め、学生を評価すべきである。 ・形成的評価の有効な利用を促進し、学生の学修をさらに促進すべきである。
改善内容・現在の状況
・学修成果の到達度を評価する基準として、コンピテンス／コンピテンシーを定めており、毎年度シラバス等に記載し周知している。 ・各講義・実習において、形成試験や課題レポートなどの成果物、口頭試問などを行い、成績が乏しい学生には再テストや課題の再提出などによって学生にフィードバックを行っている。科目によっては学生と面談し、学生の学修を促進すべく対応している。これらのフィードバックは定期試験（統一試験）にも活かされている。
今後の計画
・今後も学生に、コンピテンス／コンピテンシーについて周知する。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 B1.3-03 医学部医学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）／コンピテンスとコンピテンシー ・【再掲】資料 B1.3-06 コンピテンス及びコンピテンシーレベル表

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。
改善内容・現在の状況
・各学年の前・後期に、臨床実習前教育の総括試験としての統一試験を実施している。それに向け、各科目の講義あるいは実習期間中に形成的評価が行われ、その成績は学生にフィードバックされている。 ・出席状況、課題提出の有無、形成評価への取り組み状況は態度評価の一貫として記録されている。度重なる無断欠席や課題未提出等、態度不良と判断された場合は、当該講座の教員から個別に注意が与えられる他、学務委員会において報告・審議され、その後の対応（注意喚起、統一試験受験資格剥奪）が決定される。
今後の計画

・引き続き，学生に対しフィードバックを行う。
改善状況を示す根拠資料
・資料 Q3.2-01 形成的評価のフィードバック

4. 学生

4.2 学生の受け入れ

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・地域の要請に応じて、大幅に入学定員を増加させている。
改善のための助言
・学生の増加に伴う教員負担を軽減し、施設・設備を充足する方策を講じるべきである。
改善内容・現在の状況
・医学教育における効率化と教員の負担軽減を目的として、先進デジタル医学・医療教育学講座ならびにデジタル医学・医療教育推進センターを令和 5 年に設置した。動画教材コンテンツの充実とともに、県内医療機関と一体となって卒前・卒後医学教育のデジタル化を推進している。 ・令和 6 年 12 月に臨床研究医養成センターが新たに設置され、学生の関心に応じて基礎から臨床まで様々な先端医学研究に医学部生が 1 年生から積極的に参画できる体制を整えている。
今後の計画
・引き続き、負担軽減及び施設・設備の充実を進める。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B4.2-01 先進デジタル医学・医療教育学講座 ・資料 B4.2-02 未来の医師を育てるカリキュラム ー新しい医学・医療を拓くデジタル教育の試みー （参考：https://www.med.akita-u.ac.jp/guide/medic/20240315_1.php） ・資料 B4.2-03 デジタルコンテンツ公開について ・資料 B4.2-03 令和 6 年度附属臨床研究医養成センター事業報告書（抜粋） （参考：https://www.med.akita-u.ac.jp/center/easy/news/file/20250403.pdf）

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・地域の要請に応じて、入学者の数を見直している。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・地域の要請に応じて、卒業後も秋田に残る医師数を増加させるため、2025 年入試に「東北地域枠」という入試区分を新たに設定した。
今後の計画
・今後、「東北地域枠」の実施状況や入学者について検証する。
改善状況を示す根拠資料
・資料 Q4.2-01 東北地域枠 ・資料 Q4.2-02 令和 7 年度（2025 年度）秋田大学医学部医学科入学者選抜方法の変更について

4. 学生

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・学修上の問題を抱える学生を早期に発見し、より手厚く支援する制度を設けるべきである。
改善内容・現在の状況
・学務委員長，学業生活支援 WG に加えて，講義担当者・学年担任や学務課職員が，学修上やメンタルに問題があると思われる学生を発見した場合に情報共有できる仕組みを策定した。
今後の計画
・引き続き，問題を抱える学生の早期発見に努め，支援を行う。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B4.3-01 情報共有の仕組み

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・学務委員に加え、より多くの教員もカウンセリングに参加することが望まれる。
改善内容・現在の状況
・講義や実習中に何か問題がありそうな学生がいた場合，すぐに学務課を通じて他講座の教員に連絡し，当該学生の情報収集（出席状況や課題提出状況など）に努め，問題があった場合には担当講座教員あるいは学年担任による面談を実施し早期ケアを行っている。また，必要に応じて基礎・社会医学講座懇話会（基礎・社会医学講座のみで開かれる教授会）においても学生の情報共有を行い，前期・後期や学年の垣根を超えて，シームレスに情報共有しながら意見交換や引継ぎを行っている。また，メンタルに問題を抱えている場合には学内の臨床心理士や精神科医師にも相談し，引き継いでいる。
今後の計画
・引き続き，学生について情報共有を行い，早期のケアにつなげる。
改善状況を示す根拠資料
・資料 Q4.3-01 基礎・社会医学講座懇話会

4. 学生

4.4 学生の参加

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・使命の策定、教育プログラム管理、学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加すべきである。 ・教育プログラムの策定、評価に関する委員会に学生が参加しているが、実質的に適切な議論に加わるべきである。
改善内容・現在の状況
・カリキュラム評価委員会には学生が参加し、使命の策定や教育プログラムの管理等に関する議題に積極的に関与している。令和6年度においても、学生委員の参加の下、使命やカリキュラムの内容等について議論を行った。
今後の計画
・引き続き、学生の参加の下、議論を行う。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 B1.1-01 令和6年度第2回カリキュラム評価委員会 議事要旨 ・【再掲】資料 B1.4-01 カリキュラム評価委員会 名簿

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・シミュレーション手技体験、ボランティア活動や学童の保健教育に関わる「医療活動サークル MedicA」の活動を奨励していることを、実地調査において確認した。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための助言
・ なし
改善内容・現在の状況
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・ 医学科の目標に掲げる地域社会への貢献を目的として、地域固有の健康課題の解決を目指す寄附講座などを設置している。 ・ 寄附講座などを設置して教育内容の充実を図るとともに、入学定員増などに伴う負担の増大に対応した教員の確保に努めている。
改善のための示唆
・ 教授以外の教員の募集・選抜についても、教育活動の業績評価、教育を実践する能力の評価基準を定めるべきである。
改善内容・現在の状況
・ 以下の寄附講座を新たに設置している。 ①男鹿なまはげ地域医療（総合診療連携講座）（令和6年4月～） ②仙北ウェルビーイング地域医療（総合診療連携講座）（令和6年4月～） ③不整脈先進治療学講座（令和4年4月～） ・ 教授以外の教員の公募について、学部教育や大学院教育に関する教育活動や実績（業績）・診療活動や実績（業績）についても提出書類に記載してもらうようにしている。
今後の計画
・ 寄附講座の活動を通じ、引き続き地域固有の健康課題の解決を目指す。 ・ 教授以外の教員の公募の際の評価基準について、引き続き検討する。
改善状況を示す根拠資料
・ 資料 Q5.1-01 寄附講座 ・ 資料 Q5.1-02 教員公募資料

5. 教員

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ 教員活動評価において低評価の教員に対して活動改善計画書の提出を求め、継続してモニタしている。
改善のための助言
・ すべての教員が医学科カリキュラムの全体像や学修成果を理解するための FD 等を適切に開催すべきである。 ・ 新任教員に対して医学教育に関する FD を実施し、医学科の使命やカリキュラムの周知を図ることが望まれる。
改善内容・現在の状況
・ F Dとして以下を開催し、これからの県内一体化したカリキュラムのあり方を共有した。 ①デジタル教育推進医学教育 FD（令和 6 年 9 月 3 日） ②関連病院協議会における学外指導者への医学教育 FD（令和 6 年 9 月 30 日） ③学内・外指導者向け医学教育 FD（令和 6 年 10 月 4 日） ※スチューデントドクター認定式の前に開催 ④第 1 回デジタル医学・医療教育ネットワーク推進 全国シンポジウム：医療現場の理想的チームビルディングのための卒前・後・生涯教育シンポジウム 2024 AKITA ー次世代にむけてのネットワーク構築と組織形成のためにー（令和 6 年 11 月 2 日）
今後の計画
・ 今後、新任教員向け FD としてオンデマンド講習を整備し、確実な受講を進める体制を構築する予定である。
改善状況を示す根拠資料
・ 資料 B5.2-01 デジタル教育推進医学教育 FD ・ 資料 B5.2-02 第 1 回デジタル医学・医療教育ネットワーク推進 全国シンポジウム

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・ なし
改善のための示唆
・ カリキュラムを構成するそれぞれの教育活動に必要な教員を安定的に確保し、配置することが望まれる。 ・ 教員の昇進にあたり教育実績についての具体的な基準を策定することが望まれる。
改善内容・現在の状況
・ なし
今後の計画

・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

6. 教育資源

6.4 医学研究と学識

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・「研究配属」で実践的な研究をすべての学生が体験する機会を増やすことが望まれる。
改善内容・現在の状況
・引き続き「研究配属」を医学科3年次必修科目としており、全学生が参加している。 ・臨床研究医養成センターにおいて、医学科学生を SA として雇用し、学内各講座へ配属している。学部の早い段階から研究に触れる機会を積極的に創出することで、研究マインドの醸成、実験技術の早期習得を目指す。
今後の計画
・今後も引き続き、学生が実践的な研究を体験する機会を設ける。 ・臨床研究医養成センターにおいて、すでに令和7年度 SA の募集を行っている。
改善状況を示す根拠資料
・資料 Q6.4-02 令和7年度 SA の募集 ・【再掲】資料 Q2.1-01 令和6年度「研究配属」シラバス（抜粋） ・【再掲】資料 Q2.1-02 臨床研究医養成センター SA の活動 （参考： https://www.med.akita-u.ac.jp/center/easy/about/education/index.html ） ・【再掲】B4.2-04 令和6年度附属臨床研究医養成センター事業報告書

6. 教育資源

6.5 教育専門家

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・「医学教育学講座」の専任教員が教育プログラムの構築・運営・評価に中心的な役割を果たしている。
改善のための助言
・なし
改善内容・現在の状況
・医学教育学講座専任教員及びデジタル教育推進医学教育講座専任教員が、カリキュラム検討委員会や学務委員会に所属しており、教育の中心的役割を担っている。
今後の計画
・引き続き、医学教育学講座専任教員及びデジタル教育推進医学教育講座専任教員等の教育専門家が中心となって、様々な教育関連業務を進める。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B6.5-01 学務委員会 名簿 ・【再掲】資料 B1.4-02 カリキュラム検討委員会 名簿

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・教職員の教育能力向上のため、学内外の教育専門家が実際に活用されている。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

6. 教育資源

6.6 教育の交流

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・国内外教育機関との交流をさらに推進すべきである。
改善内容・現在の状況
・トリサクティ大学（インドネシア），国立イスラム大学（インドネシア），アイルランド王立外科医学院（アイルランド）との部局間協定に向け，準備を進めている。 ・以下のとおり，留学や国際交流を促進するための催しを実施した。 ①【2024年4月25日】ハーバード大学 バーチャル留学イベント ②【2024年11月15日】研究プロモートセミナー 留学の行き方・楽しみ方～想いは道を創る～ ③【2024年11月25日】留学成果報告会 ④【2025年2月28日】国際交流イブニングセミナー
今後の計画
・部局間協定に向け，準備を進める。 ・引き続き，留学や国際交流を促進するための催しを開催する。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B6.6-01 ハーバード大学 バーチャル留学イベント ・資料 B6.6-02 研究プロモートセミナー 留学の行き方・楽しみ方～想いは道を創る～ ・資料 B6.6-03 留学成果報告会 ・資料 B6.6-04 国際交流イブニングセミナー

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・医学部医学科国際交流基金より、海外派遣学生全員に旅費その他必要経費を支給している。
改善のための示唆
・なし
改善内容・現在の状況
・引き続き，医学部医学科国際交流基金より，海外派遣学生に旅費その他必要経費を支給した。 2024年度においては，学部学生14人へ留学経費を助成している。 ・併せて，秋田大学に受け入れた留学生5人についても，医学部医学科国際交流基金により助成を行っている。
今後の計画
・今後も海外派遣学生等への支援を継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・2020年度に「医学部教育評価・IRセンター」と「カリキュラム評価委員会」が発足し、教育プログラム評価を実施する体制が整えられた。
改善のための助言
・学生の進歩について、試験の成績だけでなく、コンピテンス、コンピテンシーの達成レベルの観点から教育プログラムの評価を行うべきである。 ・カリキュラムの評価に関わる委員会として「評価・IR委員会」と「カリキュラム評価委員会」があり、より効率的な評価が適切に実施できるよう体制を整備すべきである。 ・「カリキュラム評価委員会」は2021年3月3日に第1回が開催されたばかりであり、実質的に活動させて教育プログラム評価を実施し、その結果をカリキュラムに確実に反映させるべきである。
改善内容・現在の状況
・令和3年度より、卒業時アンケートにおいてコンピテンス／コンピテンシーの達成レベルを自己評価させることとし、結果についてカリキュラム評価委員会で検討している。 ・令和4年度に、リンク票（カリキュラムマップとコンピテンシーの紐づけを行ったもの）を整備し、令和5年度に見直しを行った。これにより、学生の能力について可視化を行い、修得状況を確認している。現在、修得状況の取りまとめを行っており、今後カリキュラム評価委員会に資料を提供する予定である。 ・CC1・CC2の実習表により、目標とするコンピテンス／コンピテンシーについて、指導者評価と自己評価を行っている。その集大成として、卒業時OSCEの16ステーション（機構課題3課題・自学課題13課題）の評価につなげている。卒業時OSCEの各分野の結果については、終了後の全評価者による反省会で省察し、翌年度からの各分野実習改善につなげている。 ・CC-EPOC（卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム）により、コンピテンス／コンピテンシーの達成レベルを解析している。 ・カリキュラム評価委員会と評価IR委員会の学生委員は重複しないように配慮し、多くの学生が参画できるようにしている。また、議事録はカリキュラム検討委員会や学務委員会に提出している。
今後の計画
・引き続きリンク票の見直しと能力の可視化を進める。 ・今後、全学年を対象に「卒業時アンケート」と同じ内容でアンケート調査を実施し、コンピテンス／コンピテンシー達成度を評価する仕組みを整備する。
改善状況を示す根拠資料
・資料 B7.1-01 CC1・CC2 実習表 ・資料 B7.1-02 卒業時OSCE ステーション一覧

- ・【再掲】資料 B1.1-01 令和 6 年度第 2 回カリキュラム評価委員会 議事要旨
- ・【再掲】資料 B1.3-03 資料医学部医学科 教育課程編成・実施の方針
(カリキュラム・ポリシー) / コンピテンスとコンピテンシー
- ・【再掲】資料 Q3.1-01 C C - E P O C

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・長期間で獲得される学修成果、社会的責任について、定期的に教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

7. 教育プログラム評価

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・卒業時アンケート調査だけでなく、教育プログラムについて、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。
改善内容・現在の状況
・各種授業評価アンケート，「研究配属」（医学科３年次実習）学生アンケート，CC-EPOC（卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム）等を引き続き実施し，教員へ結果をフィードバックして，次年度の改善に活用している。
今後の計画
・今後も教育プログラムについて，フィードバックを収集・分析し，改善を進める。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 B2.2-02 「研究配属」研究発表 学生アンケート（抜粋）
・【再掲】資料 Q3.1-01 CC-EPOC

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・教育プログラムに関する教員と学生からの系統的なフィードバックを分析し、教育プログラムの改善につなげることが望まれる。
改善内容・現在の状況
・教員と学生代表を委員としている「カリキュラム評価委員会」において，卒業時アンケートの結果を定期的に検討している。結果については「カリキュラム検討委員会」へ提供し，改善に役立っている。
今後の計画
・引き続き教育プログラムについて，フィードバックを収集・分析し，改善を進める。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 B1.1-01 令和６年度第２回カリキュラム評価委員会 議事要旨
・【再掲】資料 Q1.4-01 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

7. 教育プログラム評価

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・教育プログラムのモニタと評価に関わるカリキュラム評価委員会に、教員、各学年学生代表が含まれている。
改善のための助言
・なし
改善内容・現在の状況
・なし
今後の計画
・なし
改善状況を示す根拠資料
・なし

質的向上のための水準 判定：部分的適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・他医療職種、患者、地域医療の代表者など、広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。
改善内容・現在の状況
・令和6年度に選任したカリキュラム評価委員会委員についても、医師以外の医療従事者代表、学外医療機関の代表、学外有識者、患者代表、学生代表等が含まれ、これら委員により教育について幅広く意見を聴取している。 ・聴取した意見については、カリキュラム検討委員会等に提供し、改善のための参考資料としている。
今後の計画
・今後も幅広い関係者を含む委員での検討を予定している。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 B1.4-01 カリキュラム評価委員会 名簿 ・【再掲】資料 Q1.4-01 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための助言
・カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会は独立性を担保した組織構成とすべきである。
改善内容・現在の状況
・カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会について、両員会に参画する学生委員は重複しないよう選定し、独立性を保つようにした。また、カリキュラム評価委員会には外部有識者も委員として参加しており、様々な職種の方から意見を聴取することができるように配慮されている。
今後の計画
・引き続き各委員会の独立性を保っていく。
改善状況を示す根拠資料
・【再掲】資料 B1.4-01 カリキュラム評価委員会 名簿 ・【再掲】資料 B1.4-02 カリキュラム検討委員会 名簿 ・【再掲】資料 Q1.4-01 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・なし
改善のための示唆
・各委員会・会議等の決定事項の透明性を確保することが望まれる。
改善内容・現在の状況
・カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会について、委員会議事録を残すとともに、資料を相互に共有することによって、透明化と情報共有ができるようにしている。また、必要に応じ、カリキュラム評価委員会には学務課職員も陪席できるようにしている。 ・カリキュラム評価委員会で何が議論され、カリキュラム検討委員会で何を議論すべきなのかを明確にすることによって、会議資料作成の効率化も図っている。独立性を確保しながらも両委員会が協力して共通認識をもって課題に取り組む体制を構築しつつある。
今後の計画
・引き続き両委員会で情報共有を行い、透明性を確保する。
改善状況を示す根拠資料
・資料 Q8.1-01 カリキュラム検討委員会 議事録 ・【再掲】資料 Q1.4-01 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供